

血圧脈波（ABI）検査



手足の血圧を測る検査です。腕や足首などに血圧用の巻物（カフ）を巻いて、同時に血圧を測ります。

Q 何のために検査をするのですか？

A 足の動脈（下肢動脈）に狭窄（狭くなる）や閉塞（詰まる）など動脈の詰まり具合の程度を知るために行います。

Q 身体への負担はありますか？

A 血圧を測るため、腕や足に巻いたカフが強く膨らんでくるので、痛いと感じる場合があります。その膨らみは、時間とともにしぼんで楽になります。

Q 透析をしていますか？

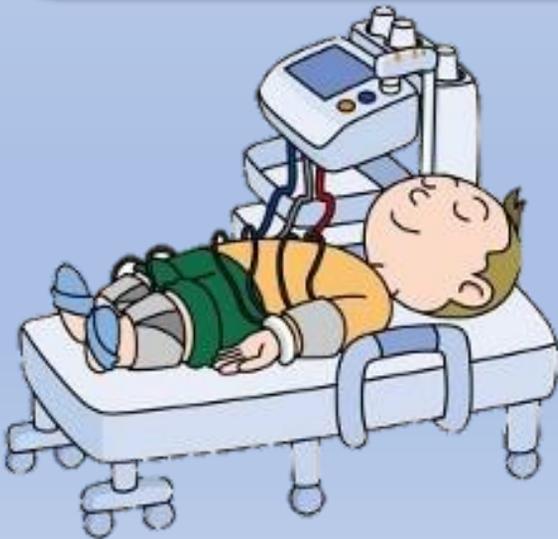
A 人工透析を受けている患者様では、透析のために作っているシャントが破損する可能性があるため、担当者も確認はいたしますが、透析をしている場合は申し出てください。シャントのある腕は避けて検査を行います。

Q 検査時間はどのくらいかかりますか？

A 準備などを含めて約10～15分の検査です。

Q どのように検査するのですか？

A ベッドに仰向けに寝ていただき、両側の腕と足首に血圧計の巻物（カフ）を、両手首に心電図の電極、胸に心音マイクを装着し上側の腕と足首の血圧を測定します。上側の腕の高い方の血圧と、左右それぞれの足首の血圧の比率を計算する検査です。



血圧脈波検査（ABI）について

足首と上腕の血圧を測定して、それぞれの最高血圧である足首収縮期血圧／上腕収縮期血圧の比率（足関節上腕血圧比ankle brachial pressure index：ABI）として計算することで、血管の中が狭くなる狭窄（きょうさく）や、詰まる閉塞（へいそく）など動脈硬化の進行の程度を推定する検査で四肢血圧検査ともいわれています。ベッドにおおむけになった状態で左右の上腕と足首の血圧を同時に測定します。正常では足首の血圧の方が少し高めになり、この比率が0.9以下の場合には動脈硬化が疑われます。

加齢とともに血管の変性が進んで、また生活習慣病などの悪化にしたがって動脈硬化が進むと、冠状動脈に狭窄や閉塞を生じて狭心症や心筋梗塞などの虚血性心疾患、あるいは脳梗塞や脳出血などの脳動脈疾患（脳卒中）といった、生命に危険を伴う疾患に陥る危険性が高くなります。

動脈硬化がさらに進行して下肢動脈に閉塞を生ずると、足に冷感などを伴う下肢閉塞性動脈硬化症に陥り、足先の壊死（えし）をきたすこともあります。ABI検査はこうした動脈硬化に伴って発症する疾患を早期発見するためにも重要であり、異常値を示した場合には精密な検査を受ける必要があります。

ABI検査の意義

ABI検査は命に関わる潜在的な末梢動脈疾患（PAD）を敏速かつ効果的にスクリーニングするための検査です。身体に大きな害はなく・簡単に出来ます。

次にあげる危険因子を持つ全ての患者さんにABI検査が勧められています。

- 65才以上
- 糖尿病
- 高血圧
- 体重過多
- 不活性もしくは寝たきり
- 高コレステロール
- 心臓病または脳溢血などの脳血液供給障害家族病歴